

けいじばん

○次回活動日のご案内；6月18日（日曜日）9時40分森林館駐車場集合、主な活動プログラムは広葉樹林整備
*研修&実習および各班活動。

*この研修は年度活動計画に記載の通り光環境や生物多様性保全の観点から広葉樹林整備のあり方を学習するもので、当日の実習は主に相対照度の測定実習です。

かつどうのきろく

5月14日（日曜日）曇一時小雨 参加会員16名、

○マダケ林防護柵（網）設置；マダケ林タケノコのニホンシカによる食害防止のため、約75㎡（5×15m）を防護柵（網）で囲った。まず区域内に堆積している伐採木・竹・枯れ枝などの障害物を除去し、立ち木や竹を支柱にして2メートル高さに竹の梁を渡して固定し、これに海苔網を貼り付けて出来上がり。小雨のなかの人海作戦、竹を切る人、竹の梁を固定する人、網を梁に固定する人の呼吸がピッタリ合い、前日の新井・長村副代表の周到な



準備の甲斐もあって、2時間で立派に完成しました。「主目的はタケノコ保護ではなくマダケ林保護です」という意見と「タケノコ保護の目的がなければこれほど真剣になれない」という意見がぶつかり合いながら。

○水辺清掃；ホテイ岬及びスダジイ林南側入江の2方面に分かれ、漂着したペットボトル、ビン、カン、紙、ビニール、などのごみ拾いを行った。君津市分別基準に従い可燃ごみと不燃ごみに選別し、君津市の公共ごみ用大袋に10袋満杯。ワークショップ以来初の大掃除で水辺はすっかりキレイになりました。

○コナラ更新林調査；コナラ更新林（03年12月伐採）の成長調査を再開した。伐採株が高樹齢のせいと全体的に萌芽枝は衰退気味で確実に更新しそうなものは数株しかない。調査対象の3株で各萌芽の高さを測ったが先端部が一部枯死して昨年より低くなったものがある。実生苗は調査対象の90%以上が生存しているが、乾燥気味のせいと成長が非常に遅い。3年目を迎えてもほとんどの実生苗が30センチ程度である。引き続き調査を続け、今年度中には残す実生苗の選定を行いたい。

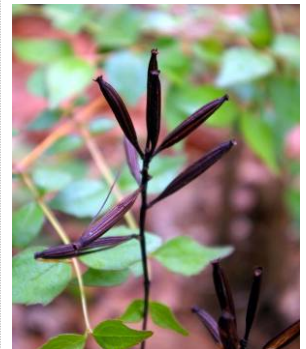
○昼休みに総会欠席者の所属班を本人の希望で決めました。

○昼食後は各班打合せ及び班活動・・・その概要は

植物班；ギンランやミヤマガマズミなど05年未確認種のうち現在開花中の種を探し求めて、林内広く歩きまわったが、残念ながら発見出来なかった。昨年開花が確認されたササバギンランは新芽を出してはいたが虫又は動物の食害で死滅寸前、キンランは一輪開花。林床・樹木とも開花種が少ない。

「腐生植物」の仲間クロムヨウラン

05年未確認種のクロムヨウラン（ラン科、千葉県重要保護植物：B）を4月23日、高塚さんが撮影していたことがわかりました。開花期は夏。クロムヨウランは「腐生植物」の一種で葉も葉緑素もなく自ら光合成せず、キノコのように菌根菌に依存する特異な植物で、原生林に近い常緑広葉樹林に自生しているが、近年森林環境の変化に伴い絶滅が危惧されている植物です。右の写真は昨年開花した残骸です。この夏無事生存していて開花するかどうか、乞うご期待。なお豊英島ではほかに「腐生植物」の仲間ツチアケビ（ラン科、千葉県重要保護植物：C、開花期は6-7月）が02年調査で確認されていますが、05・06年調査では未確認です。



クロムヨウラン 4/23 高塚

なお植物班は5月31日水曜日臨時活動の植物調査を行います。詳細は伊藤班長からお知らせします。

きのこ班；村野班長準備の活動計画案に従い打合せ、これからの活動目標、活動日、調査方法、観察・記録「フィールドノート」などについて話し合い。打合せ後、島内を一周してきのこ観察。キシメジ科2種類のほかベニタケ科がちらほら。雨天続きのわりにキノコの発生が少ない。最大の収穫は水辺清掃時に見つけたアラゲキクラゲとベテランの苺米さんをきのこ班にお迎えしたこと。

栽培きのこ班；キノコの収穫；椎茸 1,76 kg（内訳、'04植菌0,46kg, '05植菌1,3kg） ナメコ 0,22kg（ナメコ6）雨天のため含水量が多い。'04年植菌ほだ木の遮光枝を除去（新芽が出て日陰になり遮光の必要がないため）。表示杭の設置；'04植菌；S0401、S0402、S0403、S0404（合計4本） '05植菌；S0501、S0502、S0503（合計3本） 植菌してない原木；00501（1本）。なお新入会の森さんはIIグループ配属とした。

シカ班；シカ班2名（長村、福島）で簡単な打合せを行い、その後島内（特にスダジイ林区域、吊り橋下、ホテル岬）の踏査による痕跡調査を行いました。その結果、シカのフン、足跡、新しい食痕は確認できませんでした。午前中の活動、午後の班活動のなかでシカを目撃、新たな痕跡が確認できなかったことから現時点では島内にシカはいないと考えられます。

シカ以外に確認できた痕跡は、吊り橋上はかなり大きいフン（小さな骨を含む）、吊り橋下のササ内でウサギの新しいフン、スダジイ林区域北の尾根上で大きいフン（古い、マメガキの種多い、午前中確認）、食べられたと思われる魚の残骸が複数でした。3月の活動日の踏査では、スダジイ林区域のササ内でウサギのフン、スダジイ林区域とマダケ林区域でシカのフンが確認されていることから、ウサギは継続して島内にいると考えられ、シカについては出入りがあるようです。また、他にもニホンザルか、タヌキが一時的に島を利用している可能性があります。

今後の活動について；活動日にはできるだけ多くの眼で痕跡をチェックしたいと思います。そこで、各班の活動時に地図を配付し、確認できた痕跡をそれぞれ記入していただくかと考えています。また、食痕についてはアオキ、イヌツゲを中心に定点観察を行いたいと思っています。

余談ですが対岸情報（長村）帰りに釣り船屋を見てきました。百台近い車が止まり、店は大勢の釣り人で賑わっていました（バスも数台）。豊英湖というと島の周囲だけかと思っていましたが、その上流にもかなりつづいていてフナ釣りのメッカになっているようです。これではゴミも出るわけですが、グループで来ているマニアックな人たちが多くそれほどマナーが悪いようには見えませんでした。釣り船屋を探して道に迷い島の付近も走りましたが、かなりの田畑があり電気柵で囲われていました。また、道沿いから見たかぎりでは島の対岸は全体に断崖で、シカが湖に入れるようなところは少ないようです。

木工班；昼休みに顔合わせ。今後の連絡はメール（携帯メール）で行うことを確認。

安全委員会；昼休みに顔合わせ。今後の連絡はメールで行うことを確認。

各班とも打合せや活動が活発で、千年の森の活動も多様化し、島も賑やかになりました。不参加の会員の所属班は未定になっています。ご希望を事務局までお申し出下さい。どの班も活動へのご参加を歓迎します。

千年の森トビニュース

今年もトビの雛が二羽孵化しました。4月1日以来トビの巣観察を続けていた高橋さんは、4月29日、一羽の孵化を確認、続いて5月2日二羽目の孵化を確認しました。その後二羽とも元気に育っています。5月13日には親鳥が餌を運んでくる姿も観察されています。